

令和元年度(平成30年度実施事業分)事務事業評価評価票

No. 13-009

PDCA	事務事業名	畜産臭気監視事業	部課等名	市民経済部 環境課 環境保全担当	担当	榊原	
					内線等	332	
P 総合計画との関係性等	政策体系	章： 第3章 にぎわいの創出と良好な環境が両立するまち					
		節： 第3節 生活環境の向上					
		基本施策： 3. 環境衛生対策					
		単位施策： (2) 環境衛生の維持・予防					
	根拠法令等	悪臭防止法					
	対象・目的	良好な生活環境を確保するため、畜産事業所から発生する臭気を監視し、その低減を図る。					
	目的を達成するための手段・活動内容	大同大学との共同研究で開発したハンディタイプ簡易臭気センサを活用した臭気測定及びセンサ値が高い畜産事業所における臭気指数測定を実施する。 臭気指数が高い事業所には、共同研究で得られた臭気低減方法の実践を働きかけ、住宅地における畜産臭気の低減を図る。					
D 前年度の活動結果と見られた成果	活動結果	活動実績		28年度	29年度	30年度	単位
		①大学との共同研究(現地調査等)		29	22	25	回
		②臭気指数測定実施件数		24	84	50	件
		③					
		事業費		5,453	3,869	3,462	千円
		人件費		4,447	4,442	4,372	千円
		総事業費		9,900	8,311	7,834	千円
		活動単位当たりのコスト		28年度	29年度	30年度	単位
	①人口一人当たりの臭気対策費		83	70	65	円	
	②						
	③						
	成 果	成果指標		28年度	29年度	30年度	単位
		①臭気指数15以下の畜産事業所の割合	実績値	91.7	100.0	100.0	%
			目標値	90.0	90.0	90.0	
②臭気低減のための監視指針等の策定率		実績値	—	100	100	%	
		目標値	—	100	100		
③		実績値					
		目標値					
C 課題の整理	観点別評価	必要性	有効性		効率性		
		①市の関与の妥当性 法定事務	④上位施策への貢献	大きい	⑦コスト削減余地	ある	
		②市民ニーズ 高い	⑤成果向上の余地	ある	※対象・手段の変更		
	③休廃止の影響 大きい	⑥類似事業の有無	ある	⑧受益者負担適正化余地	ない		
	事業の評価・課題	B					
		季節による畜産臭気の違いを把握するため、住宅地から1km以内の畜産施設において年3回の臭気測定を実施した。測定を行った全畜産農家に対して臭気指数を記載した通知を送り、市の基準を達成するよう促した。この結果、全ての施設において市の基準である臭気指数15以下を達成することができた。 また、大同大学との共同研究では、乾燥施設に糞尿を投入するときに含水率を85%以下にすることが、臭気低減に最も有効であることが確認できた。					
	A 課題解決のための目標	今後の事業の方向性	改善推進 臭気指数測定時には、全ての施設で15以下を達成できたが、臭気に関する市民の関心は高く、引き続き畜産農家に対して臭気低減の指導を行っていく。 今後は、共同研究により得られた知見を基に、乾燥施設への糞尿投入時の含水率を調整することに焦点を絞り、経済課と連携して畜産農家への指導を行う。また、共同研究で作成した畜産臭気低減マニュアルと、同じく共同研究で開発した簡易臭気測定器を活用し、畜産臭気低減に取り組む。				
		令和元年度の目標	成果指標			目標値	単位
			①臭気指数15以下の畜産事業所の割合			100	%